



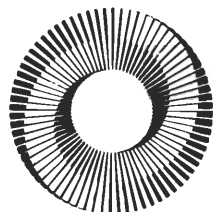
日常と非日常が交差する祭の朝（建礼門前大通り）

冬

悠久の京都御苑

—その多彩な機能—

木村 博司



自然はわれらを、われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連環。これが息の長い活動が期待される自然保護のシンボルマークに表現されています。

発行人
〒602-0881 京都市上京区
京都御苑3番地
☎075-211-6364
財団法人 国民公園協会
京都御苑 木村博司
編集
（株）白川書院
監修
環境省京都御苑管理事務所
本紙は100%再生紙を使用しています。

深い縁に導かれてか、三年ぶりに京都御苑に戻ってきました。通勤途上に毎朝、高倉橋から御所・紫宸殿を遙拝すると、御苑で働ける喜びとともに、改めて身の引き締まる思いをしています。

凝華洞の松、近衛の糸桜、百日紅、大棟、大銀杏；御苑の樹々は以前と変わらぬ姿で迎えてくれましたが、この間に変わったことも幾つかあります。一つは迎賓館の竣工、そしてもう一つは閑院宮邸跡の再整備・公開です。

建設に際して様々な経緯のあった迎賓館も、米國・ブッシュ大統領の入洛を経て、夏の特別公開には多数の参観希望が寄せられたそうです。普及は林に囲まれてひっそりとたたずみ、御苑の大きな懐にすっきり包み込まれてしまったかのようです。

一方、閑院宮邸跡は、長屋門の改修から数えて五年余り、公家屋敷の面影を偲ばせる一画として見事に蘇りました。そして、この閑院宮邸跡と九条池・拾翠亭、宗像神社などが集まる御苑の西南部一帯は、悠久の歴史が身近に感じられる貴重な空間となつています。京都には多くの社寺仏閣がありますが、それらとは一味違った雰囲気、是非多くの方々に楽しんで頂きたいと思っています。

前置きが長くなりませんが、今年の御苑ニュースのテーマは「御苑の利用」ということなので、今回は京都御苑の多彩な機能について、変わらざるもの、変わりゆくもの、という視点から少し触れてみたいと思います。

変わらざるもの
京都御苑には多くの機能がありますが、なかでも最も重要なのは、この建礼門前で、小御所の前庭としての景観を保持していくというものです。建礼門前の砂利敷きの苑路とその周辺に広がる松林は、日常感覚では広すぎるスケールですが、この広さが御所の荘厳な雰囲気や形づくられており、京都御苑が皇室苑地として誕生以来、戦後国民公園に引き継がれた後も、今に至るまで変わらぬに継承されてきました。そしてこの一帯が年に二回、祭の際にはハレの空間としての本領を具現し、普段は広すぎる苑路もこのときは狭く感じられます。

この建礼門前で、小さな異変に気づきました。京都御苑には年間三百万人を超える入苑者がありますが、自転車でも通り抜ける人達も多く、その踏跡が砂利道に微妙な曲線を描き、通称「御所の細道」と呼ばれています。御苑

ではこの春、久しぶりに苑路の砂利を敷き直しましたが、建礼門前は重要なので少々手厚すぎたのでしょうか、いつも一本になる細道がここでは複雑化しており、何だか利用者の気持を現しているようで、ちょっと可笑しくなりました。（この小異変はいつの間にか消え、今ではまた単線に戻っています）

多様な利用
それでは御所周辺、中央部を除いた周辺部ではどんな利用がされているのでしょうか。毎日の散歩、林間散策や芝生での休息、花木や紅葉の鑑賞、小川での水遊びや児童公園での遊技、園外保育や遠足、自然とのふれあいや歴史探勝、野球やテニス、ジョギングなどの市民スポーツ等々、

多彩な機能の重層
京都御苑は、都会に浮かぶ広大な緑のオアシスです。大きな時代の流れのなかで、その由緒ある沿革を踏まえ

から進めています。利用者の方々に安全で快適な御苑の自然を満喫していただける様、頑張っております。

作業期間中は何かと御迷惑をおかけいたしますが、ご理解ご協力いただきますようお願い致します。

（国民公園協会京都御苑 業務第一課主任 浦野 努

間となつています。京都には多くの社寺仏閣があり、それらとは一味違った雰囲気、是非多くの方々に楽しんで頂きたいと思っています。

御所の前庭としての景観を保持していくというものです。建礼門前の砂利敷きの苑路とその周辺に広がる松林は、日常感覚では広すぎるスケールですが、この広さが御所の荘厳な雰囲気や形づくられており、京都御苑が皇室苑地として誕生以来、戦後国民公園に引き継がれた後も、今に至るまで変わらぬに継承されてきました。そしてこの一帯が年に二回、祭の際にはハレの空間としての本領を具現し、普段は広すぎる苑路もこのときは狭く感じられます。

この建礼門前で、小さな異変に気づきました。京都御苑には年間三百万人を超える入苑者がありますが、自転車でも通り抜ける人達も多く、その踏跡が砂利道に微妙な曲線を描き、通称「御所の細道」と呼ばれています。御苑

ではこの春、久しぶりに苑路の砂利を敷き直しましたが、建礼門前は重要なので少々手厚すぎたのでしょうか、いつも一本になる細道がここでは複雑化しており、何だか利用者の気持を現しているようで、ちょっと可笑しくなりました。（この小異変はいつの間にか消え、今ではまた単線に戻っています）

多様な利用
それでは御所周辺、中央部を除いた周辺部ではどんな利用がされているのでしょうか。毎日の散歩、林間散策や芝生での休息、花木や紅葉の鑑賞、小川での水遊びや児童公園での遊技、園外保育や遠足、自然とのふれあいや歴史探勝、野球やテニス、ジョギングなどの市民スポーツ等々、

多彩な機能の重層
京都御苑は、都会に浮かぶ広大な緑のオアシスです。大きな時代の流れのなかで、その由緒ある沿革を踏まえ

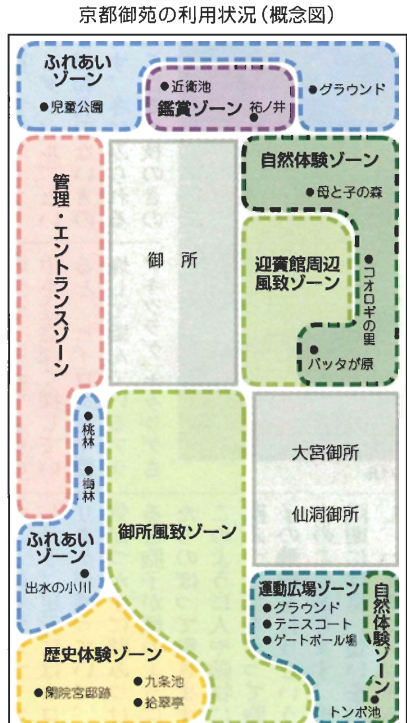
から進めています。利用者の方々に安全で快適な御苑の自然を満喫していただける様、頑張っております。

作業期間中は何かと御迷惑をおかけいたしますが、ご理解ご協力いただきますようお願い致します。

（国民公園協会京都御苑 業務第一課主任 浦野 努

微といえるでしょう。御国民公園協会・京都御苑は、昭和三十年の発足以来、京都御苑の風致を保存するにも美化と適正な利用を図るため、その管理運営に協力してきました。今後も全力を傾注したいと思っておりますので、京都御苑を訪れる皆様方のご理解、ご支援を宜しくお願い致します。

（財）国民公園協会 常務理事



自然保護憲章
自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。自然に学び、自然の調和をそこなわぬようにしよう。美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。



複雑化した「御所の細道」

京都御苑内では、年間を通して庭園の維持管理を行っています。主な作業としては、芝生地の刈り込み（年四回）、野草地の刈り込み（場所により年一回から五回）、生垣の刈り込み（年二回）、樹木手入れ（場所に合った剪定等）、苑路整備、拾翠亭内の整備、雨天時の側溝等の掃除、台風・積雪時には異常が無いか巡視点検、紅葉の季節では落葉掃除等々、色々の作業があります。



拾翠亭 冬の風景

催 事 案 内

■平成19年京都御苑自然教室

一般市民を対象とした自然教室を本年度は、下記の通り予定しています。都市の中では貴重な緑をもつ御苑で冬の自然を観察しましょう。

冬の自然教室“冬の御苑にふれよう”

1月21日(日) 9:30~12:00

主 催 環境省京都御苑管理事務所
財団法人国民公園協会 京都御苑

指 導 京都自然観察学会の先生方に指導して頂きます。

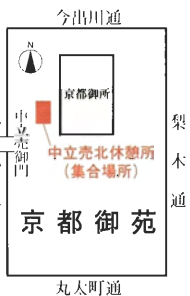
内 容 冬の御苑にはどんな草花やキノコがあり、どんな虫や鳥たちが生活しているか観察します。

集合場所 京都御苑 中立売北休憩所前
(上京区京都御苑 中立売御門内北側)

受付方法 当日、集合場所に9:30頃までにお集まり下さい。

参加費 無料

その他 筆記用具をご持参下さい。手持ちのルーペ、双眼鏡、図鑑などの観察用具があればご持参下さい。



*以降も春、夏、秋、冬と四季折々、自然教室を予定いたしております。

問い合わせ 京都御苑管理事務所 TEL.075(211)6348
財団法人国民公園協会 京都御苑 TEL.075(211)6364

会 員 募 集

財団法人国民公園協会 京都御苑

年会費

- 普通会員 1,000円以上
- 賛助会員(会社・団体) 10,000円以上

会員への特典

1. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。(ただし、普通会員は年会費4,000円以上の方に限りです。)
2. 本会発行物をそのつど送付します。

■申し込み、問い合わせ先

財団法人国民公園協会 京都御苑

住所 京都市上京区京都御苑内
〒602-0881 TEL.075(211)6364

御 苑 の 花 暦

和 名	開 花 期	主に見られる場所
サザンカ	11月~2月	乾御門から今出川御門に抜ける散策道周辺
ウメ	2月中旬~3月中旬	梅林
ヤブツバキ	2月~4月	近衛池周辺、母と子の森、白雲神社周辺



7月から発生していたマツカサタケ

立ち枯れの木や倒木に発生しています。二〇〇六年はきのこ多発の年でした。特筆すべき出来事は、日本でも一〇個体しか標本がない「ブロンゴツボマツタケ」(仮称)が京都御苑に発生したのです。まさに京都御苑は「きのこの宝庫」といわれるだけのことがありました。

冬はきのこ御三家といえ、地中に埋もれたマツカサカから発生するマツカサタケ、マツカサキノコモドキ、ニセマツカサシメジです。今回は「マツカサタケ」を紹介します。カサ、ヒダ、柄をもつハラタケ類のきのこは、その柄が異なります。カサと柄はありますが、裏側がヒダではなく、美しい針状をしているマツカサタケ科のきのこです。このきのこを上から観ると、ハート型

冬になるときのこは発生しないと考えている人が多いようです。しかしよく目を凝らして観察していると、林の中やマツの樹下にはまとまって小型のきのこが出来ます。サルノコシカケの仲間は一

小寺 祐三

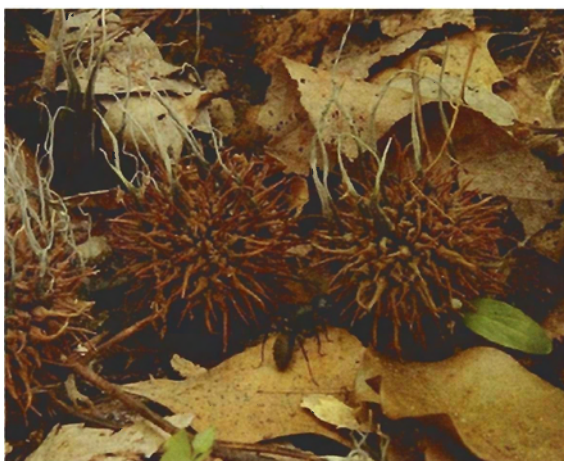
冬のきのこ



マツカサタケの裏面

をしていて、カサの径は、一〜二センチ程度、小型のきのこですが、とても丈夫なきのこで夏から冬まで観察することが出来ます。しかし近年減少していることを心配しています。林内にはエノキタケ、ヒラタケなど冬を好むきのこがみられます。さらにカワラタケ、ニクウスバタケ、コフキサルノコシカケ、オシロイタケ、ウチワタケモドキ、シハイタケなどのかたいきのこも発生しています。またフウの木の下の

よく探してみると、落ちたフウの実からヒゲのようなきのこが沢山発生しているのがみられます。クロサイワイタケ科クロサイワイタケ属・Xylaria liquidambar (キシラリア・リクイダンバル)というまだ和名のないきのこです。冬にみられるきのこは夏や秋のきのこ



キシラリア・リクイダンバル

このように人や動物に踏みつけてもらって胞子の飛散を行うというきのこもあります。梅雨期には臭い匂いを出し、ハエやコメツキムシを臭いで引き付けて胞子を運んでもらおうと考えたキノガサタケ、晩秋には悪臭を放つスッポンタケも発生し、その巧妙な胞子の飛散方法を考えた自然界の菌類の知恵には驚かされます。(京都自然観察学会)

こちがって小型のきのこです。木も葉を落として冬休みをするものが多く、その関係できのこも菌糸の発育を休むため、菌根菌の発生が少ないのです。それでも林の中を注意深く探していると、ヒイロタケや乾燥して縮んでいるアラゲキクラゲ、キクラゲも

見つけれられるでしょう。さらにはウチワタケ、シハイタケ、カワラタケ、アズマタケ、ワヒダタケ、カイガラタケ、センベイタケなども乾燥して小さくなっていることにも気がつくでしょう。足元にはホコリタケが残っていて、気がつかずに踏みつけて胞子が煙のようにたちのぼって驚きます。このように人や動物に



御溝水

御溝水と御所水道

吉井 雅彦

御所の建物や築地塀のまわりをめぐる石張りの側溝を御溝水(みかわみず)、あるいは御溝(みかわ)と呼んでいます。かつて御苑が公家町だったころ、京都御所へは禁裏御用水によって賀茂川の水が導かれていました。その水は御所の御庭に引き込まれ、御溝水となつて流れ、公家屋敷をめぐる京都の市中へ出ていきました。

とほできませんが、疏水トンネル出口にある九条山ポンプ場は、美しい煉瓦造り建築としてご存知の方もいらっしゃるでしょう。昭和二十九年の小御所焼失の際には、延焼防止にその威力を発揮した御所水道ですが、

普段は御所の御庭に引き込まれ、琵琶湖の豊富な水が御所や御苑内をうるおしました。かつてアユが泳ぎ、ホタルが飛び交う、生きものに満ちあふれた御溝水の様子は覚えていない方も多いのではないでしょうか。

既に入止した施設を復活させることは、国も地方も財政事情の厳しい状況ではなかなか難しいことですが、先人の残した貴重な財産をよみがえらせ、御所や御苑に美しく生命に満ちあふれた水環境を取りもどしたい、と考えるのは私だけではないと思います。

(環境省京都御苑 管理事務所所長)

明治四十五年、第二琵琶湖疏水の建設に合わせて、京都御所の防火用水として御所水道が整備されると、御溝にもこの水が導水されました。琵琶湖疏水の設計者である田辺湖郎の指導のもと整備された御所水道は、東山の蹴上から直径八十センチある専用の鉄管が京都御所まで敷設されています。水道管自体は岡崎道などの地下に埋設されており目にすることが



御苑の風景 ◆「雪景色の建礼門」